

平成二十八年年度特別展

力ことはとけの姿

— 岡山の信仰文化とその背景 —



2016

9.9[金] → 10.16[日]

開館時間／午前9時～午後6時(9月30日まで) *9月9日のみ、午前10時開館
午前9時30分～午後5時(10月1日から)

休館日／月曜日(9月19日、10月10日は開館)、9月20日(火)、10月11日(火)

入館料／大人650円、高校生200円、小人180円(5歳未満無料)、65歳以上320円

*会期中に展示替えを行います。前期：9月9日(金)～9月25日(日) 後期：9月27日(火)～10月16日(日)

主催：岡山県教育委員会 岡山県立博物館 共催：山陽新聞社 山陽放送

後援：OHK岡山放送 TSCテレビせとうち RNC西日本放送 KSB瀬戸内海放送 oniビジョン (公財)岡山県郷土文化財団

岡山県立博物館
Okayama Prefectural Museum

写真：上 重要文化財《隨身立像》阿形部分 高野神社 下 重要文化財《不動明王二童子像》不動明王部分 勇山寺

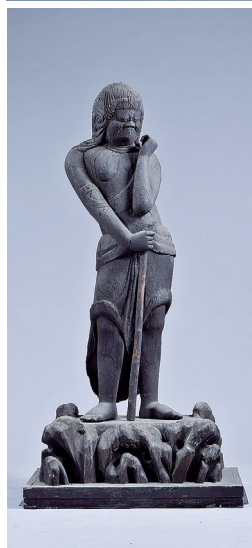
カミと ほとけの姿

— 岡山の信仰文化とその背景 —

古来、日本人が信仰してきた「カミ」は、姿を見せないもの、または姿を持たないものとされてきました。6世紀中ごろ、仏教の教えとともに、仏像が日本へ伝わります。信仰の対象である「ほとけ」の姿をあらわした仏像の存在を知った人々は、これまで信仰されてきた「カミ」に対しても、具体的な姿を求めるようになり、神像を制作します。

神像と仏像には、厳しく、怖く見えるもの、静かに、優しく見守っているように見えるものなど、さまざまな表情を浮かべるものがあります。信仰の対象として制作され、現代まで大切に伝えられたその姿には、時代を超えて人々を惹きつける魅力が備わっていると言えるのではないでしょうか。

このたびの展覧会では、神像と仏像をはじめとした彫刻を中心に、岡山県を代表する宗教美術をご紹介します。



写真：上段左より、《神像》木山神社、重要文化財《隨身立像》高野神社
中段、重要文化財《不動明王二童子像》勇山寺
下段左より、《千手観音立像》、重要文化財《観音菩薩立像》明王寺、《如来立像》安養寺

関連行事 *事前申込不要、聴講無料(入館料は必要)

○特別講座「カミとほとけの姿」

*いずれも午後1時30分～午後3時、定員140名(先着順)

第1回 9月18日(日)

「岡山県の彫刻文化財」

講師：土井 通弘氏(就実大学 教授)

第2回 9月25日(日)

「岡山の平安仏、その特性を探る

— 中・四国所在の平安仏との比較において —

講師：上蘭 四郎氏(笠岡市立竹喬美術館 館長)

第3回 10月9日(日)

「神仏習合～アジア東部における神と仏の信仰と日本」

講師：吉田 一彦氏(名古屋市立大学 教授)

○学芸員による展示解説

毎週土曜日、午後2時～午後3時

◎ 交通のご案内 JR岡山駅(東口)から

- ・徒歩(約25分)
- ・路面電車(約5分)：【東山行】「城下」下車、徒歩10分
- ・バス(約20分)：岡山駅バスターミナル1番のりば
岡電バス【藤原団地行】「後楽園前」下車すぐ

岡山県立博物館
Okayama Prefectural Museum

〒703-8257 岡山県岡山市北区後楽園1-5
TEL: 086-272-1149 FAX: 086-272-1150
<http://www.pref.okayama.jp/kyoiku/kenhaku/hakubu.htm>

